

(別紙様式1)

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

平成27年4月1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地						
履正社医療スポーツ専門学校	平成10年4月1日	釜谷 等	〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地						
学校法人履正社	大正11年4月1日	釜谷 行藏	〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592						
目的	学校教育法及びはり師きゅう師法に関する法律に基づき、はり師きゅう師に必要な専門的知識及び技術を教授し、資格取得のみならず心豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた医療人の育成と社会に貢献出来る人材を送り出すことを目的とする。								
分野	課程名	学科名		専門士		高度専門士			
医療	医療専門課程	鍼灸学科		平成17年文部科学省告示第30号		-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3	年	昼間	2235	1470	270	45		450	
		単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
180		89		8		8		16	
		人の内数		人		人		人	
生涯学習環境の整備に関する特記事項(任意記載)		『本校では生涯学習の一環として、既卒者に対し定期的に卒後教育支援を行っている。教員も含め既卒者が中心となり、自発的に臨床研究発表を行ったり、治療技術向上を目的とした実技講習会を行っている。また在校生、既卒者はもとより、本校関係者以外も参加可能な一般講演も定期的に開催し、多方面で生涯学習環境を整えている。』							
(以下の資料を添付すること)									
* 学則									

(留意事項)

1. 「学校名」、「分野」、「課程名」及び「学科名」については、設置認可を受け、又は届出を行っている名称を記入すること。全角で入力し、「課程名」は「〇〇専門課程」と「〇〇科」の間に1字スペースを空けること。
2. 1学科の中に複数のコース等を置いている場合、コース毎に記入すること。
3. 「生徒総定員」及び「生徒実員」については、推薦を行う年度(本年度)の5月1日現在の推薦学科の生徒総定員及び生徒実員を記入すること。
4. 「専任教員数」、「兼任教員数」及び「総教員数」は、推薦を行う年度(本年度)の5月1日現在の、それぞれ、推薦学科全体の教員数について記入すること。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学件の授業内容及びカリキュラム策定の基本方針において、本校に入学してくる多数以上の生徒は、高校で体育系の部活動を経験しており、その大半が部活動での負傷が原因で継続を断念したり、周囲で同様の事例を見聞したことのきっかけが動機になり、入学してくる。

我が国の高校部活やクラブチームでは、国家免許を所有した専門的な治療家、トレーナーが少なく、資格を有さない者が未熟な処置、トレーニングで選手に影響を与える事は少なくない。現場からも専門家派遣の要請が多く、そのような社会の需要に応えるべく、特色的な授業内容とカリキュラムを準備している。

具体的には、生徒が目指す高校部活動へトレーナーとして派遣している鍼灸院、鍼灸整骨院、スポーツ整形クリニック等での、臨地研修や体験研修の実施、就職斡旋など、本人達が目指すべき姿を実際に観察させている。

また、当該分野にて活躍・活動をしている講師や実習先指導者、卒業生の勤務先院長などと、普段から連絡を密にし、情報の交換を行っている。2020年に向けて、スポーツ振興が活発になり、スポーツ外傷によるケガも増加すると見込んでいる。例えば、来院される患者のスポーツ種目は年々、また月ごとに変化しているので、その患者にうまく対応できる同じ種目経験者の派遣要請や、就職紹介などにも応えて

おし、今後増加する社会の変化や要請を教育に落とし込んでいきたい。
(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学校組織図(医療専門課程)校務分掌の中に、独立した外部委員会として位置付けた。

カリキュラム編成大綱化が導入され以降、建学の理念の基づく学校の特色や方針を授業に反映させているが、教育編成過程委員会を独立した組織と定義し、今後は企業(医療機関など)の声や意見を取り入れ、医療産業の変革に適応できるよう、カリキュラムを編成していきたい。

(3)教育課程編成委員会等の開催頻度等

年2回

(4)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

一部の教科目を除き、授業は原則セメスター制度で前期・後期の2期に分けて行っている。教育課程編成の全体方針は、前年度実施された実習先指導者からの意見や新卒卒業生の卒後臨床研修先指導者との面談を通じ、前年度2月から3月にかけて策定するが、前期に取り入れた情報や内容については、後期の授業内容に反映させるように教育課程編成委員より随時情報を受ける体制を築いている。

課題、老人医学(高齢者スポーツ医学)の履修、学生コミュニケーション向上

理学教員に1コマ、認知症を含めた高齢者のリハビリ医学を担当してもらう。現在実施の臨床実習の対象患者をできるだけ多く高齢者とし、その特徴を把握させる。学生コミュニケーション向上に関しては、実習や演習内でプレゼンやスピーチ、質疑応答の機会を増やす。臨床実習においては、患者さんに積極的に話しかけるように指導する。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の委員名簿
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の承諾書(本人の同意書及び企業等の承諾書)
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の所属について概要が分かる資料
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 企業等との連携による実習・演習等の基本方針

患者の安全確保、利益授与を最大の目的として、各現場で実習などを見学体験し、リスクマネジメントの観点を経験する。授業内容において、鍼灸師が対象とする疾患や実際の臨床現場で起こりうる諸問題の解決法などを中心に履修し、その重要性の認識と共に、医学的管理や判断が必要な疾患の交通整理の知識を養うことを基本方針とする。

企業等には、リスクマネジメントの観点より、現場に即した実践かつ専門的な職業教育を行い、特に現代医学的診察や東洋医学的診察などの所見演習も担当いただいている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業等との連携において、鍼灸治療の適用外である生命にかかわる重症重篤疾患の有無を判断し、可及的速やかに専門医に紹介できる鑑別能力を身につけることを学ぶ。また、信頼の置ける専門医を通じた医接連携の重要性を体験し、医師が下す医学的判断の重要性を考える。また鍼灸治療の対象疾患などについての観察、鑑別、判断、処置、指導管理、治療計画の策定などを見学し、自身が遭遇したケースを想定させる。

また、2年次において鍼灸院及び鍼灸接骨院、病院・クリニックにおいて、臨床見学実習を必修としている。そして実習先からの感想や意見、情報を得て、生徒の教育や指導に活かしている。

ただ、昨今の学生の意識レベルを鑑み、1年生の早期においても臨床現場見学を取り入れる計画をしており、将来に対する明確な目標を持った学生を育み、社会に貢献できる医療人かつ職業人として意識を高く持たせたい。

また、本科の授業においても、教員資格を有する臨床家の先生の実技実習・講義授業も行っており、臨床現場とリンクしている内容の授業を少しでも多く取り入れている。

(別途、以下の資料を提出)

- * 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等
- * 実習・演習等において連携する企業等の概要

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

業団(公益社団法人全日本鍼灸学会、公益社団法人東洋療法学校協会など)が開催する学会、研修会に積極的に参加し、現場の応用技術や臨床知識を修得すると同時に、業界の活動や変化を俊敏に捉え、現場と教育が乖離しないように教育に反映している。

また年一度、学内において公開講演を実施しており、研修の機会を確保している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

公益社団法人 全日本鍼灸学会 学術大会や公益社団法人 東洋療法学校協会 学術大会に年各1回参加し、研修を行っている。

また、大阪鍼灸師会や大阪鍼灸マッサージ師会が定期的で開催している研修会、講演会に参加している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

公益社団法人 東洋療法学校協会においては、教員研修会として年1回2日間教員研修に参加している。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

第63回 公益社団法人 全日本鍼灸学会 学術大会 愛媛大会 5/16(金)~18(日)

第36回 公益社団法人 東洋療法学校協会 学術大会(神奈川) 10/22(水)

② 指導力の修得・向上のための研修等

第38回 公益社団法人 東洋療法学校協会 教員研修会 8/6(水)~7(木)

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

地域医療を行う開業医から地域の実情に併せた医療の情報を受け、実技や実習の内容に反映させている。また、臨床授業にクラブチームにおいて、スポーツ指導を行っている鍼灸院院長より、少年のケガや予防についての情報を得て、教育に落としている。

他に、業界団体である大阪鍼灸マッサージ師会・大阪鍼灸師会の先生方を招聘し、鍼灸業界の実状と今後に向けての指針などをご教示頂き教育に活かしたり、医療機器の会社よりリハビリ医療や物療機器の情報や社会の反応を受け、指定介護施設の管理者からは、高齢者の実情や変化などの情報を受けて教育に活かしている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 教育成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 公表方法・公表時期

公表方法 : ホームページ・広報誌等の刊行物

公表時期 : 平成27年10月初旬

(4) 学校関係者評価結果の活用状況

本委員会において、企業から参画された委員の意見は以下の内容であった。

医療とスポーツを融合した教育方針は理解できるが、職業実践教育においては即戦力が期待されているので、今後この部分の強化が期待される。また、職能教育のみならず、人格育成や医療に携わるにふさわしい人材教育も必要であると意見があった。

職業実践教育及び即戦力に対して、鍼灸学科では学外での臨床実習において、十分な時間の確保及び質の向上に努めている。柔道整復学科においては、高齢者機能訓練指導施設の研修などを多様な領域で実施しており、理学療法学科では急性期リハビリテーションを始め、高齢者の回復施設など、多くの領域において臨床実習を実施している。

人材育成においては、柔道整復学科、理学療法学科とも入学直後に新入生一泊研修制度を導入し、人格教育及び医療人たるにふさわしい研修を入学初期段階で実施している。鍼灸学科においては学内付属施設でマンツーマンの臨床指導を実施し、ていねいで患者心理に主眼をおいた教育を心掛けている。最後に委員の意見を学校全体に照らしてみると、これまで若年層を主として対象としていたスポーツの概念をシニア世代の予防運動や体操なども含め、高齢者の特徴や疾病事故の予防医学の観点を教育に反映し、今後は改善を進めて参りたい。

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の委員名簿
- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の承諾書(本人の同意書及び企業等の承諾書)
- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の所属について概要が分かる資料
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

入学者の多くが、将来スポーツ医療に従事したいと考えており、実習概要や校外研修要項を作成し、随時説明を行っている。

また、就職先や実習先の指導者には、入学者の動機や将来希望する専門分野を説明し、出来る範囲でそのような症例やケースに遭遇できる機会の確保を要請している。介護予防や高齢者リハビリテーションにおいても、少数であるが同様の対応をとっている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校案内
(2) 各学科等の教育	鍼灸学科
(3) 教職員	先生紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
(5) 様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
(6) 学生の生活支援	学生の日、就職先・キャリアアップ
(7) 学生納付金・修学支援	納付金のご案内
(8) 学校の財務	情報公開(財務)
(9) 学校評価	情報公開(学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

(別途、以下の資料を提出)

* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	タケナカ ヒロシ	所属部 役職名	事務長
	氏名	竹中 宏		
	所在地	〒532-0024 大阪府大阪市淀川区十三本町3-4-21		
	TEL	06-6305-6592	FAX	06-6305-1692
	E-mail	takenaka@riseisha.ac.jp		

(備考)

・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。(別紙様式2、3、4、5、6、7についても同じ。)

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科) 平成26年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			心理学1	臨床場面における心理学的視点を学ぶことで、対人援助職従事者としての心構えや患者との関係性の理解を深める。	2前	30	2	○			○			○		
○			心理学2	スポーツを行う際のパフォーマンスは心理的狀態に影響を受けている。そのため、心理学知見を学び、新たなスポーツ観を身につける。	2後	30	2	○			○				○	
○			栄養学1	消化・吸収された栄養素の体内での変化や役割を理解し、どのような食品に栄養成分が含まれているのを知り、食事と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連を理解する。	1前	30	2	○	△		○				○	
○			栄養学2	各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。	1後	30	2	○	△		○				○	
○			アスレチックトレーナー学1	アスリートの活動・活躍に不可欠な生命力的なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。	1後	30	2	△	△	○	○				○	○
○			アスレチックトレーナー学2	スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習の繰り返しにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患があり多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。	2前	30	2	△	△	○	○				○	○
○			アスレチックトレーナー学3	スポーツ選手がどのように考え、過ごし、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解させる。テーピング、マッサージコンディショニングなどの技術を身に付ける。	2後	30	2	△	△	○	○				○	○
○			解剖学1 (総論・体表解剖)	医学を学習する上で最も基本となる正常な人体構造を系統的に学習する。特に総論では、人体の構成の基礎となる細胞や組織、体表面から見た解剖について学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	
○			解剖学2 (骨学)	鍼灸治療をする上で最も重要な部位である筋肉の走行を理解する前に、その付着部である骨を理解する。骨を理解することは筋肉を触診、経穴の取穴する上でランドマーク(目印)になるので骨をしっかりと理解する。	1前	30	2	○			○				○	
○			解剖学3 (筋学)	鍼灸治療をする上で最も重要な筋肉の走行、作用、支配神経などを理解する。また筋は、経穴や治療の部位で欠かせない部分であり、しっかりと理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			解剖学4 (脈管学)	生体の生命維持に関わる機能のうち、循環器系に加えて、生体の調節機構に関わる内分泌系の基本的構造について学習する。	1前	30	1	○			○				○	
○			解剖学5 (内臓学)	呼吸機能、消化機能、排泄・生殖機能に関わるそれぞれの器官の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を学習する。	1後	30	1	○			○				○	
○			解剖学6 (神経学)	神経系の基礎知識を身につけていく。その上で、鍼灸治療で起こりやすい医療過誤の一つである神経損傷を起こさぬよう、神経解剖学を十分修得する。	1後	30	1	○			○				○	
○			生理学1	生命の基本単位である“細胞”の働きを中心に、体液の組成や分類、物質の移動について理解を深める。また、神経系の分類をはじめ、中枢神経系の働きや、自律神経の働きを交感神経系・副交感神経系を対応させながら学ぶ。	1前	30	1	○			○				○	

○		生理学2	筋肉の構造と収縮の仕組みや、反射などを中心とした運動調節の仕組みについて学ぶ。また、感覚の生理学的意義や一般的な感覚受容のメカニズムについて学ぶ。	1後	30	1	○			○		○						
○		生理学3	血液の種類・成分・働きや、血液型について学ぶ。また、循環、血圧・循環調節の仕組み、循環の反射性調節、リンパ系も理解する。さらに、呼吸器系の構造と機能や、消化器系の口腔内消化から小腸運動までの一連の消化メカニズムを理解する。	1前	30	1	○			○		○						
○		生理学4	小腸以降の消化器系の働きや、排便反射について学ぶ。また、体温調節の仕組み・障害、排泄や体液調節、各内分泌腺・内分泌ホルモンの特徴・働きを学ぶ。生殖では性腺の働きと生殖機能や、成長・老化について理解する。また、生体の防御機構において人体の機能を総合的に学ぶ。	1後	30	1	○			○		○						
○		病理学概論1	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。まず、病理学とはどのような学問か理解した上で、病理学の基礎から始め、病因、循環障害、退行性病変を理解する。	2前	30	1	○			○		○						
○		病理学概論2	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。その中には、進行性病変、炎症、腫瘍、アレルギー、先天異常も含まれるので、それぞれの概要やメカニズムを学	2後	30	1	○			○		○						
○		衛生学・公衆衛生学1	衛生学・公衆衛生学は、基礎医学と臨床医学の接点となる社会医学の分野であり、包括的な科目である。衛生学・公衆衛生学の理論や疫学の方法論を踏まえたうえで、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病予防のあり方などについて学習する。	3前	30	1	○			○		○						
○		衛生学・公衆衛生学2	衛生学・公衆衛生学は、人間の生存に影響を及ぼすさまざまな関連要因をふまえ、健康の保持・増進を目的とする学問である。公衆衛生制度の発展の系譜、わが国の公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の各領域の仕組み、現状、課題について学ぶ。	3後	30	1	○			○		○						
○		臨床医学総論1	医療面接から始まり、身体観察を行い、適切な治療を行うためには診察法や主たる症候に精通することが必須である。本科目では症候、臨床検査法などを理解し適切な治療を行う方法を学ぶ。	2前	30	1	○			○		○						
○		臨床医学総論2	各種検査や疾患を理解し、検査所見や各疾患の症状から疾患を導き出し、カルテ記入ができるように学ぶ。	2後	30	1	○			○		○						
○		リハビリテーション医学	リハビリテーションは、運動機能障害を治療し、社会復帰をめざして施工する医療行為をいう。しかし医療分野の専門家・多様化に伴い、リハビリテーションの意味も多岐にわたるようになった。従って整形外科疾患をはじめ、脳外科疾患、呼吸器疾患、心臓機能について学ぶ。	3前	30	1	○			○		○						
○		臨床医学各論1	本科目は、臨床医学における「整形外科学」を中心とした授業である。ともに西洋臨床医学の基礎であり、中核的存在である。西洋医学的な疾病へのアプローチ、すなわち西洋医学的思考の把握に直結し、その習得を目標とする。	2前	30	1	○			○		○						
○		臨床医学各論2	臓器別(呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、腎尿路疾患)について学び、それぞれの疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。	2後	30	1	○			○		○						○
○		臨床医学各論3	臓器別(消化器疾患、神経疾患)、精神疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。各疾患に対して、病態および症状を説明でき、鑑別できることを目標とする。	3前	30	1	○			○		○						
○		臨床医学各論4	感染症、内分泌疾患、代謝異常、眼科、一般外科、婦人科、麻酔科疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。各疾患に対して、病態および症状を説明でき、鑑別できることを目標とする。	3後	30	1	○			○		○						
○		運動学	今後リハビリテーション医学を学ぶにあたってその基礎となる障害やその治療のメカニズムを理解するために必要な知識を学ぶ。解剖学・生理学の復習も交えながら、主に運動を担っている骨・関節・筋肉・神経の構造機能、姿勢・歩行、反射などを取り上げ、臨床での活用をめざす。	2後	30	1	○			○		○						
○		医療概論	医療に関するあらゆる事項を広く学習する。広い知識を身につけるとともに、自ら考え、判断する力を養い、医療人として独り立ちできるよう、精神面、知識面での基礎力を養う。	1後	30	1	○	○		○		○						

○		はりきゅう実践実習2 (西洋医学系2)	脳神経検査法・神経学的所見や、頸部・肩関節・前腕部の評価法、胸郭出口症候群・末梢神経絞扼障害の診察と評価、足関節・膝関節・腰部の評価と治療に対する知識・技術を修得する。	2 後	60	2	△	○	○	○				
○		はりきゅう実践実習3 (西洋医学系3)	はりきゅう実践実習1・2で習得した知識・技術を活かし、臨床現場で種々の疾患に対応できるよう症例検討を中心とした内容を行う。総合診療的な判断・施術ができる鍼灸師を育成する。	3 前	60	2	△	○	○	○				
○		はりきゅう実践実習4 (東洋医学系)	四診(望診・聞診・問診・切診)を実践し、総合判断のもとに証を立て、その証に対し治療方針・配穴の決定を行い、治療に至るまでの一連の東洋医学的治療を身につけることを目的とする。	2 後	30	1	△	○	○	○				
○		はりきゅう実践実習5 (東洋医学系)	本校独自の東洋医学治療システムを使った診察・治療法を身につける。また、症例検討を中心とした内容を繰り返すことで、東洋的な判断・施術ができる鍼灸師を育成する。	3 前	30	1	△	○	○	○				
○		臨床実習	現地実習に先立ち、心得、留意事項、個人情報保護、守秘義務、コンプライアンス、院内規則遵守などの指導を行う。また附属鍼灸院において、模擬患者を想定したケーススタディを演習し、治療を体験する。時には一般の患者を対象に、見学と説明を行う。学外においては鍼灸院、鍼灸接骨院や医療機関において体験実習を実施する。実習簿をもとに現場の指導者や院長より指導を受け、担当教員が個別面談とフィードバックを臨床現場に出る前に今までの実技内容を総合的に振り返り、確実に自分のものとする。臨床現場を想定しお互いに治療を行うことで、実際の患者と対峙した時に落ち着いて迷いのない鍼灸施術を行うことが出来るようになることを目的とする。	3 前	45	1		○	○	○				
○		はりきゅう総合実習	卒業研究を行う。また、研究や学術活動に対する心構え・態度や研究への基本的知識を習得し、研究的思考の過程を知り、研究結果の事象に対し科学的に考察し、将来の研究的素養を養うことを目的とする。	3 後	30	1	△	○	○	○				
○		総合演習1	総合演習1の卒業研究を引き続き行ない、実際に論文作成と論文発表を行なう。そして能動的で応用力のある鍼灸師を育むことを目的とする。	2 後	30	1		○	○	○				
○		総合演習2	総合演習2の卒業研究を引き続き行ない、実際に論文作成と論文発表を行なう。そして能動的で応用力のある鍼灸師を育むことを目的とする。	3 前	30	2		○	○	○				
○		医学演習1	医学演習では、自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われた科目の理解を高めるための演習を行う。医学演習1では解剖学、生理学、病理学の内容を中心に確かな知識・技術を身に付けた鍼灸師を育成するための演習を行う。	3 後	60	2		○	○	○				
○		医学演習2	医学演習2では東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論の内容を中心に確かな知識・技術を身に付けた鍼灸師を育成するための演習を行う。	3 後	60	2		○	○	○				
○		医学演習3	医学演習3では臨床医学総論、臨床医学各論の内容を中心に確かな知識・技術を身に付けた鍼灸師を育成するための演習を行う。	3 後	30	1		○	○	○				
○		医学演習4	医学演習4では卒後の臨床現場を想定し、履修した全ての科目内容を包括的に理解・応用し、現代医学的にも東洋医学的にも総合的な検査・施術を実践できる鍼灸師となるための演習を行う。	3 後	30	1		○	○	○				
○		基礎演習	鍼灸師・社会人として当然身に付けなければならない、問題解決能力や課題解決への取り組み(将来の目的を達成する方法も含む)を習得する。また意欲的な人間性を育み、よりよい人間関係を築くコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	1 前	30	1		○	○	○				
合計				6 4 科目				2 2 3 5 単位時間(8 6 単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学生は、学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を修得しなければ、進級もしくは卒業できない。また、卒業要件については、規定の出席率をみだし、指定された単位数を修得し、卒業試験に合格したものを、卒業判定会議で審査し、校長が認定したものとす。		1 学年の学期区分	前期・後期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 3 - 1)

実習・演習等において連携する企業等一覧

(医療専門課程 鍼灸学科)

番号	名称	位置(所在地)	授業科目名	企業等の担当者 (職名)
1	さかい鍼灸院	大阪府大阪市東淀川区豊里7-28-25	臨床鍼灸学1(経絡治療) 臨床鍼灸学2(経絡治療)	院長 酒井 良和
2	REATH株式会社 BodyCoordinateRoom&整骨院	大阪府八尾市志紀町1-15-201	アスレティックトレーナー学1 アスレティックトレーナー学2 アスレティックトレーナー学3	代表 和田 照茂
3	ゆのう鍼灸院	京都府京田辺市花住坂2-2-20	東洋医学臨床論2	院長 副田 恵子 (旧姓:高木)

(留意事項)

- 1 企業等毎に通し番号を付してください。
- 2 実習・演習等の実施にあたり連携している企業等(実施要項の要件を満たすものに限り)を全て列記してください。

(別紙様式3-2)

企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 鍼灸学科)

授業科目名	臨床鍼灸学1(経絡治療)	授業時数又は単位数	30時間 1単位		
実施期間	第3学年 前期(4月から9月にかけて半期15週、週1日90分授業を実施する)				
実習・演習等の目的及び概要	日本の伝統的鍼灸治療法である経絡治療は、症状に対する治療だけでなく病を起こしている根本をみつけアプローチする治療である。経絡治療をする上で必要な診察方法を習得することを目的とする。				
企業等との連携の基本方針	机上の勉強だけでは絶対に得られない臨床現場での経験や応用法を、実際の鍼灸院で日々臨床をされている鍼灸師によって、職業として実践されている内容を学校教育に落とし込んでもらうように連携をしている。				
企業等との連携内容	経絡治療という日本の伝統鍼灸治療法は通常の授業内でも学べるが、臨床鍼灸師と連携することで、臨床現場で長年培われてきた生きた経絡治療を体系だてて学べる内容となっている。				
学修成果の評価方法	到達度をはかるため、前期終了時に学科試験・実技試験を課している。				
実習・演習等計画					
日程	実習・演習等の内容	実施場所			
1回目	診療の流れを理解させる	教室・実技室			
2回目	問診表の使用法を理解させる				
3回目	舌を観察(スケッチ)し病態を理解させる				
4回目	脈診の内容を理解させる				
5回目	脈診特に六部定位脈診を習得させる				
6~7回目	六部定位脈診の診方・脈証の考察をチェックする				
8回目	腹診の内容を理解させ、五臓腹診を習得させる				
9~10回目	背候診を習得させる				
11回目	腹診・背候診の診方、腹証・愈穴をチェックする				
13~14回目	問診・舌・脈・腹・背候診の流れを習得させる				
15回目	評価:問診・舌・脈・腹・背候診を評価する				
連携する企業等	さかい鍼灸院				

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目(実施要項の要件を満たすものに限ります。)毎に作成すること。

企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 鍼灸学科)

授業科目名	臨床鍼灸学2(経絡治療)	授業時数又は単位	30時間 1単位		
実施期間	第3学年 後期(10月から3月にかけて半期15週、週1日90分授業を実施する)				
実習・演習等の目的及び概要	経絡治療の診療を習得させるとともに医療面接を実践させ、その流れを習得させることを目的とする。また、特効穴・局所治穴の刺鍼・施灸法を習得することを目的とする。				
企業等との連携の基本方針	机上の勉強だけでは絶対に得られない臨床現場での経験や応用法を、実際の鍼灸院で日々臨床をされている鍼灸師によって、職業として実践されている内容を学校教育に落とし込んでもらうように連携をしている。				
企業等との連携内容	経絡治療という日本の伝統鍼灸治療法は通常の授業内でも学べるが、臨床鍼灸師と連携することで、臨床現場で長年培われてきた生きた経絡治療を体系だって学べる内容となっている。				
学修成果の評価方法	到達度をはかるため、後期終了時に学科試験・実技試験を課している。				
実習・演習等計画					
日程	実習・演習等の内容	実施場所			
1回目	切経の習得、治療穴の選定	教室・実技室			
2回目	医療面接のシミュレーション				
3~4回目	診察から証の把握、治療までの習得				
5回目	腰痛点・肩痛の刺鍼・施灸の習得				
6回目	落枕穴・帯状疱疹の刺鍼の習得				
7回目	八邪・顔面神経麻痺の刺鍼の習得				
8回目	肥満・歯痛の刺鍼の習得				
9回目	膝関節痛・耳鳴りの刺鍼・施灸の習得				
10回目	慢性腰痛・鼻閉等の刺鍼・施灸の習得				
11~12回目	診察から治療までの再習得				
13~15回目	診察から治療までの実技評価				
連携する企業等	さかい鍼灸院				

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目(実施要項の要件を満たすものに限ります。)毎に作成すること。

(別紙様式3-2)

企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 鍼灸学科)

授業科目名	東洋医学臨床論2	授業時数又は単位	60時間 2単位
実施期間	第2学年 後期(10月から3月にかけて半期15週、週1日90分授業を2コマ実施する)		
実習・演習等の目的及び概要	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、東洋医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。		
企業等との連携の基本方針	机上の勉強だけでは絶対に得られない臨床現場での経験や応用法を、実際の鍼灸院で日々臨床をされている鍼灸師によって、職業として実践されている内容を学校教育に落とし込んでもらうように連携をしている。		
企業等との連携内容	中医学や日本古来の伝統鍼灸治療法を主に行っている経験豊富な臨床鍼灸師と連携することで、教科書「東洋医学臨床論」を中心とした内容に加え、臨床現場で実際に効果のあった各種鍼灸治療法を交えた内容を学べる。		
学修成果の評価方法	到達度をはかるため、後期終了時に学科試験・実技試験を課している。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1～2回目	東洋医学的な治療についての概要、背部俞穴の取穴確認	教室・実技室	
3～6回目	頭痛・眼精疲労、脱毛について		
7～8回目	便秘・下痢について		
9～13回目	胸痛、腹痛、顔面痛、顔面麻痺について		
14～16回目	咳嗽・喘息について		
17～18回目	鼻閉・鼻汁について		
19～20回目	歯痛について		
21～22回目	悪心・嘔吐について		
23～24回目	めまい・耳鳴・難聴について		
25～26回目	月経異常について		
27～28回目	排尿障害について		
29～30回目	症例検討の評価について		
連携する企業等	ゆのう鍼灸院		

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目(実施要項の要件を満たすものに限り)毎に作成すること。

(別紙様式3-2)

企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 鍼灸学科)

授業科目名	アスレティック・トレーナー学1	授業時数又は単位	30時間 2単位
実施期間	第1学年 後期(10月から3月にかけて半期15週、週1日90分授業を実施する)		
実習・演習等の目的及び概要	アスリートの活動・活躍に不可欠なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。また、テーピング技術を身に付ける。		
企業等との連携の基本方針	机上の勉強だけでは絶対に得られないトレーナー現場での経験・対処法を、実際に数多くのスポーツ選手をトレーナーサポートしている鍼灸師兼スポーツトレーナーによって、職業として実践されている内容を学校教育に落とし込んでもらうように連携をしている。		
企業等との連携内容	経験豊富なスポーツトレーナーと連携することで、知識として教科書で習う解剖学が実際のスポーツ現場でスポーツバイオメカニクスとして活かされ、実学の要素を十分交えた内容を学べる。		
学修成果の評価方法	到達度をはかるため、後期終了時に学科試験・実技試験を課している。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1回目	トレーナーの概要について	教室・実技室 トレーニングルーム	
2回目	アスレティックトレーニング基礎Ⅰ		
3回目	テーピング 上肢1		
4回目	アスレティックトレーニング基礎Ⅱ		
5回目	テーピング 上肢2		
6回目	ビジョントレーニング1		
7回目	テーピング 下肢1		
8回目	ビジョントレーニング2		
9回目	テーピング 下肢2		
10回目	運動能力について		
11回目	テーピング 体幹1		
12回目	バランスについて		
13回目	テーピング 体幹2		
14～15回目	テーピング 応用1		
連携する企業等	REATH株式会社 BodyCoordinateRoom & 整骨院		

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目(実施要項の要件を満たすものに限ります。)毎に作成すること。

(別紙様式3-2)

企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 鍼灸学科)

授業科目名	アスレティック・トレーナー学2	授業時数又は単	30時間 2単位
実施期間	第2学年 前期(4月から9月にかけて半期15週、週1日90分授業を実施する)		
実習・演習等の目的及び概要	スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習の繰り返しにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患があり多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。また、テーピング・コンディショニング技術を身に付ける。		
企業等との連携の基本方針	机上の勉強だけでは絶対に得られないトレーナー現場での経験・対処法を、実際に数多くのスポーツ選手をトレーナーサポートしている鍼灸師兼スポーツトレーナーによって、職業として実践されている内容を学校教育に落とし込んでもらうように連携をしている。		
企業等との連携内容	経験豊富なスポーツトレーナーと連携することで、実際のスポーツ現場で行われているテーピング技術やコンディショニングを中心に、スポーツ現場に則した内容を学べる。		
学修成果の評価方法	到達度をはかるため、前期終了時に学科試験・実技試験を課している。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1回目	アスレティックトレーナー学1の復習	教室・実技室 トレーニングルーム	
2～3回目	テーピング ホワイト 足首		
4回目	テーピング ホワイト 足首測定		
5回目	柔軟性について		
6回目	柔軟性文書作成		
7回目	バランスについて		
8回目	バランス文書作成		
9回目	コンディショニングについて		
10回目	コンディショニング文書作成		
11回目	テーピングテスト		
12～15回目	各種スポーツ傷害についてのプレゼンテーション発表		
連携する企業等	REATH株式会社 BodyCoordinateRoom & 整骨院		

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目(実施要項の要件を満たすものに限ります。)毎に作成すること。

(別紙様式3-2)

企業等と連携した実習・演習等

(医療専門課程 鍼灸学科)

授業科目名	アスレティック・トレーナー学3	授業時数又は単位	30時間 2単位		
実施期間	第2学年 後期(10月から3月にかけて半期15週、週1日90分授業を実施する)				
実習・演習等の目的及び概要	スポーツ選手がどのように考え、過ごし、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解させる。また、様々な面からアスリートのパフォーマンスを上げるため各種トレーニング法を学ぶ。				
企業等との連携の基本方針	机上の勉強だけでは絶対に得られないトレーナー現場での経験・対処法を、実際に数多くのスポーツ選手をトレーナーサポートしている鍼灸師兼スポーツトレーナーによって、職業として実践されている内容を学校教育に落とし込んでもらうように連携をしている。				
企業等との連携内容	アスレティックトレーナー学3では、経験豊富なスポーツトレーナーと連携し学んできたアスレティックトレーナー学1・2を実際に応用し、スポーツトレーナーとして様々な角度からサポート出来る内容を学べる。				
学修成果の評価方法	到達度をはかるため、後期終了時に学科試験・実技試験を課している。				
実習・演習等計画					
日程	実習・演習等の内容	実施場所			
1回目	体幹トレーニングについて	教室・実技室 トレーニングルーム			
2回目	スタビライゼーションについて				
3回目	ピラティスについて				
4～5回目	レッドコードについて				
6～7回目	フィジカルチェック				
8回目	遠征、大会時について				
9回目	トレーニング計画				
10回目	競技分析				
11回目	テーピング応用2				
12～13回目	サーキットトレーニング				
14回目	トレーニング SAQ				
15回目	医療機関との連携について				
連携する企業等	REATH株式会社 BodyCoordinateRoom & 整骨院				

(留意事項)

- 1 企業等と連携する授業科目(実施要項の要件を満たすものに限ります。)毎に作成すること。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
履正社医療スポーツ専門学校	平成10年4月1日	釜谷 等	〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人履正社	大正11年4月1日	釜谷 行藏	〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592				
目的	学校教育法及びはり師きゅう師法に関する法律に基づき、はり師きゅう師に必要な専門的知識及び技術を教授し、資格取得のみならず心豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた医療人の育成と社会に貢献出来る人材を送り出すことを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	鍼灸学科	平成17年文部科学省告示第30号	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2235	1470	270	45	0	450
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
180人	89人	8人	8人	16人			
学期制度	■前期 : 4月1日～9月30日 ■後期 : 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 : 有 ■成績評価の基準・方法 科目試験、課題遂行等より評価 優(80点以上) 良(79～70点以上) 可(69～60点以上) 不可D(59点以下)			
長期休み	■学年始 : 4月1日 ■夏季 : 8月上旬～8月下旬 ■冬季 : 12月下旬～1月上旬 ■学年末 : 3月31日		卒業・進級条件	各学年において履修すべき科目の所定の単位修得を認定されたものは進級を認める。また全ての指定された単位数を取得し、規定の出席率を満たした者に判定会議の審査にて校長が認定し、卒業証書を授与する。			
生徒指導	■クラス担任制 : 有 ■長期欠席者への指導等の対応 クラス担任より定期的に面談及び家庭訪問を実施し、状況把握と改善に努める。		課外活動	■課外活動の種類 海外研修 行政解剖実習など ■サークル活動 : 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 鍼灸院・鍼灸整骨院、医療機関、プロスポーツチーム(トレーナー)など ■就職率^{※1} : 96 % ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 85 % ■その他 (平成 26 年度卒業者に関する平成27年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	はり師、きゅう師			
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成26年4月1日 在学者 100名 (平成26年4月1日 入学者を含む) 平成27年3月31日 在学者 96名 (平成27年3月31日 卒業者を含む)		■中退率 4 %				
■中途退学の主な理由 一番多い理由は、本人の進路変更である。							
■中退防止のための取組 個人面談や、保証人を交えての三者面談を何度も行い、中退防止に努めている。場合によっては本校専属のカウンセラーにも相談に乗って頂いている。							
ホームページ	履正社医療スポーツ専門学校ホームページURL : http://www.riseisha.ac.jp/						

1. 教育課程の編成 (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)		
<p>当該分野にて活躍・活動をしている企業等(講師や実習先指導者、卒業生の勤務先院長など)と、普段から連絡を密にし、情報の交換を行っている。2020年に向けて、スポーツ振興が活発になり、スポーツ外傷によるケガも増加すると見込んでいる。例えば、来院される患者のスポーツ種目は年々、また月ごとに変化しているので、その患者にうまく対応できる同じ種目経験者の派遣要請や、就職紹介などにも応えており、今後増加する社会の変化や要請を教育に落とし込んでいきたい。</p>		
(教育課程編成委員会等の全委員の名簿) 平成27年4月1日現在		
名 前	所 属	
清行 康邦	公益社団法人 全日本鍼灸師学会	
徳山 健司	公益社団法人 大阪府柔道整復師会	
森 匡	医療法人社団 森外科	
村川 昌也	むらかわ整骨院	
芦田 昇治	医療法人 青洲会診療所	
池尾 忠思	医療法人尼崎厚生会 立花介護老人保健施設	
(開催日時) 第1回 平成27年6月24日 14:30~15:30 第2回 平成27年9月16日 14:30~15:30		
2. 主な実習・演習等 (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)		
<p>患者の安全確保、利益授与を最大の目的として、各現場で実習などを見学体験し、リスクマネジメントの観点を経験する。授業内容において、鍼灸師が対象とする疾患や実際の臨床現場で起こりうる諸問題の解決法などを中心に履修し、その重要性の認識と共に、医学的管理や判断が必要な疾患の交通整理の知識を養うことを基本方針とする。企業等には、リスクマネジメントの観点より、現場に即した実践かつ専門的な職業教育を行い、特に現代医学的診察や東洋医学的診察などの所見演習も担当いただいている。</p>		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
アスレティック・トレーナー学1・2・3	アスリートの活動・活躍に不可欠なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。また、テーピング技術を身に付ける。	REATH株式会社 BodyCoordinateRoom & 整骨院
東洋医学臨床論2	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、東洋医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。	ゆのう鍼灸院
臨床鍼灸学1・2 (経絡治療)	日本の伝統的鍼灸治療法である経絡治療は、症状に対する治療だけでなく、病を起こしている根本をみつけアプローチする治療である。経絡治療をする上で必要な診察方法を習得する。	鍼灸院さかい
3. 教員の研修等 (教員の研修等の基本方針)		
<p>業団(公益社団法人全日本鍼灸学会、公益社団法人東洋療法学校協会など)が開催する学会、研修会に積極的に参加し、現場の応用技術や臨床知識を修得すると同時に、業界の活動や変化を俊敏に捉え、現場と教育が乖離しないように教育に反映している。 また年一度、学内において公開講演を実施しており、研修の機会を確保している。</p>		
4. 学校関係者評価 (学校関係者評価委員会の全委員の名簿) 平成27年4月1日現在		
名 前	所 属	
伊藤 久夫	公益社団法人 大阪府鍼灸マッサージ師会	
安村 亮	ラックヘルスケア株式会社	
豊田 紘生	外科豊田医院	
中谷 功	なかたに鍼灸整骨院	
萩原 嘉彦	ハギーコーポレーション	
松尾 和弥	メディカルケア福田 デイサービス福	
(学校関係者評価結果の公表方法) URL: http://www.riseisha.ac.jp		
5. 情報提供 (情報提供の方法) URL: http://www.riseisha.ac.jp		

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科) 平成27年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			心理学1	臨床場面における心理学的視点を学ぶことで、対人援助職従事者としての心構えや患者との関係性の理解を深める。	2前	30	2	○			○					
○			心理学2	スポーツを行う際のパフォーマンスは心理的狀態に影響を受けている。そのため、心理学知見を学び、新たなスポーツ観を身につける。	2後	30	2	○			○					
○			栄養学1	消化・吸収された栄養素の体内での変化や役割を理解し、どのような食品に栄養成分が含まれているのかを知り、食事と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連を理解する。	1前	30	2	○	△		○				○	
○			栄養学2	各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。	1後	30	2	○	△		○				○	
○			アスレチックトレーナー学1	アスリートの活動・活躍に不可欠な生命力的なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。	1後	30	2	△	△	○	○				○	○
○			アスレチックトレーナー学2	スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習の繰り返しにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患があり多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。	2前	30	2	△	△	○	○				○	○
○			アスレチックトレーナー学3	スポーツ選手がどのように考え、過ごし、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解させる。テーピング、マッサージコンディショニングなどの技術を身に付ける。	2後	30	2	△	△	○	○				○	○
○			解剖学1 (総論・体表解剖)	医学を学習する上で最も基本となる正常な人体構造を系統的に学習する。特に総論では、人体の構成の基礎となる細胞や組織、体表面から見た解剖について学ぶ。	1前	30	2	○			○				○	
○			解剖学2 (骨学)	鍼灸治療をする上で最も重要な部位である筋肉の走行を理解する前に、その付着部である骨を理解する。骨を理解することは筋肉を触診、経穴の取穴する上でランドマーク(目印)になるので骨をしっかりと理解する。	1前	30	2	○			○				○	
○			解剖学3 (筋学)	鍼灸治療をする上で最も重要な筋肉の走行、作用、支配神経などを理解する。また筋は、経穴や治療の部位で欠かせない部分であり、しっかりと理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			解剖学4 (脈管学)	生体の生命維持に関わる機能のうち、循環器系に加えて、生体の調節機構に関わる内分泌系の基本的構造について学習する。	1前	30	1	○			○				○	
○			解剖学5 (内臓学)	呼吸機能、消化機能、排泄・生殖機能に関わるそれぞれの器官の正常な肉眼的構造と組織・細胞学的構造を学習する。	1後	30	1	○			○				○	
○			解剖学6 (神経学)	神経系の基礎知識を身につけていく。その上で、鍼灸治療で起こりやすい医療過誤の一つである神経損傷を起こさぬよう、神経解剖学を十分修得する。	1後	30	1	○			○				○	
○			生理学1	生命の基本単位である“細胞”の働きを中心に、体液の組成や分類、物質の移動について理解を深める。また、神経系の分類をはじめ、中枢神経系の働きや、自律神経の働きを交感神経系・副交感神経系を対応させながら学ぶ。	1前	30	1	○			○				○	
○			生理学2	筋肉の構造と収縮の仕組みや、反射などを中心とした運動調節の仕組みについて学ぶ。また、感覚の生理学的意義や一般的な感覚受容のメカニズムについて学ぶ。	1後	30	1	○			○				○	

○		生理学3	血液の種類・成分・働きや、血液型について学ぶ。また、循環、血圧・循環調節の仕組み、循環の反射性調節、リンパ系も理解する。さらに、呼吸器系の構造と機能や、消化器系の口腔内消化から小腸運動までの一連の消化メカニズムを理解する。	1前	30	1	○		○	○				
○		生理学4	小腸以降の消化器系の働きや、排便反射について学ぶ。また、体温調節の仕組み・障害、排泄や体液調節、各内分泌腺・内分泌ホルモンの特徴・働きを学ぶ。生殖では性腺の働きと生殖機能や、成長・老化について理解する。また、生体の防御機構において人体の機能を総合的に学ぶ。	1後	30	1	○		○	○				
○		病理学概論1	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。まず、病理学とはどのような学問か理解した上で、病理学の基礎から始め、病因、循環障害、退行性病変を理解する。	2前	30	1	○		○	○				
○		病理学概論2	鍼灸師として必要な病理学の知識を理解する。その中には、進行性病変、炎症、腫瘍、アレルギー、先天異常も含まれるので、それぞれの概要やメカニズムを学ぶ。	2後	30	1	○		○	○				
○		衛生学・公衆衛生学1	衛生学・公衆衛生学は、基礎医学と臨床医学の接点となる社会医学の分野であり、包括的な科目である。衛生学・公衆衛生学の理論や疫学の方法論を踏まえ、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病予防のあり方などについて学習する。	3前	30	1	○		○	○				
○		衛生学・公衆衛生学2	衛生学・公衆衛生学は、人間の生存に影響を及ぼすさまざまな関連要因をふまえ、健康の保持・増進を目的とする学問である。公衆衛生制度の発展の系譜、わが国の公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の各領域の仕組み、現状、課題について学ぶ。	3後	30	1	○		○	○				
○		臨床医学総論1	医療面接から始まり、身体観察を行い、適切な治療を行うためには診察法や主たる症候に精通することが必須である。本科目では症候、臨床検査法などを理解し適切な治療を行う方法を学ぶ。	2前	30	1	○		○	○				
○		臨床医学総論2	各種検査や疾患を理解し、検査所見や各疾患の症状から疾患を導き出し、カルテ記入ができるように学ぶ。	2後	30	1	○		○	○				
○		リハビリテーション医学	リハビリテーションは、運動機能障害を治療し、社会復帰をめざして施工する医療行為をいう。しかし医療分野の専門家・多様化に伴い、リハビリテーションの意味も多岐にわたるようになった。従って整形外科疾患をはじめ、脳外科疾患、呼吸器疾患、心臓機能について学ぶ。	3前	30	1	○		○	○				
○		臨床医学各論1	本科目は、臨床医学における「整形外科学」を中心とした授業である。ともに西洋臨床医学の基礎であり、中核的存在である。西洋医学的な疾病へのアプローチ、すなわち西洋医学的思考の把握に直結し、その習得を目標とする。	2前	30	1	○		○	○				
○		臨床医学各論2	臓器別(呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、腎尿路疾患)について学び、それぞれの疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。	2後	30	1	○		○		○			
○		臨床医学各論3	臓器別(消化器疾患、神経疾患)、精神疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。各疾患に対して、病態および症状を説明でき、鑑別できることを目標とする。	3前	30	1	○		○	○				
○		臨床医学各論4	感染症、内分泌疾患、代謝異常、眼科、一般外科、婦人科、麻酔科疾患の概要、発生機序、病態、症状、検査、治療などについて学習する。各疾患に対して、病態および症状を説明でき、鑑別できることを目標とする。	3後	30	1	○		○	○				
○		運動学	今後リハビリテーション医学を学ぶにあたってその基礎となる障害やその治療のメカニズムを理解するために必要な知識を学ぶ。解剖学・生理学の復習も交えながら、主に運動を担っている骨・関節・筋肉・神経の構造機能、姿勢・歩行、反射などを取り上げ、臨床での活用をめざす。	2後	30	1	○		○	○				
○		医療概論	医療に関するあらゆる事項を広く学習する。広い知識を身につけるとともに、自ら考え、判断する力を養い、医療人として独り立ちできるよう、精神面、知識面での基礎力を養う。	1後	30	1	○	○	○	○				
○		関係法規	はりきゅう施術は、人体に危害を及ぼすおそれのある行為を行うことも含まれているため、一定水準の知識及び技能を有する者が行う必要がある。免許者の業務が適正に行われるよう法の知識を習得する。	3後	30	1	○		○	○				
○		東洋医学概論1	鍼灸治療を行う上で最も基礎となる東洋医学の基礎理論、人体に対しての考え方、疾病観を学ぶことを目的とする。	1前	30	1	○		○	○				

○		東洋医学概論2	鍼灸治療に直接関わる診断論の間診まで学ぶ。この基礎知識をしっかりと身に付け、東洋医学的鍼灸治療の基礎を固めていく。	1後	30	1	○			○		○					
○		東洋医学概論3	鍼灸治療に直接関わる、診断論の切診、治療論を学ぶ。これらの鍼灸治療に直接関わる基礎知識をしっかりと身に付け、東洋医学的鍼灸治療を行うための土台作りを行う。	2前	30	1	○			○		○					
○		経絡経穴概論1	「経穴」は鍼灸治療を行う上で基本となるものである。本授業では名前(経穴名)、取り方(取穴法)、六臓六腑との関係を覚え、また要穴の意味を理解する。	1前	30	1	○			○		○					
○		経絡経穴概論2	本授業では、骨度法で身体各部の位置を理解し、全ての経穴の取穴ができることを目標とし、各経絡の要穴を理解し、鍼灸治療に必要な能力を身に付ける。	1後	30	1	○			○		○					
○		経絡経穴概論3	鍼灸治療を行うためにはより効果的な経穴の「選穴」ができる必要がある。本授業では、経穴の特性である「穴性」やその組み合わせを学ぶ。	2前	30	1	○		△	○				○			
○		はりきゆう理論	鍼灸施術とその治療効果を、科学の目で観察し、そのメカニズムを論理的に考察する能力を養うことを目的とする。また、鍼や灸の基本的知識(術式や製造方法など)を理解する。	3前	30	1	○			○		○					
○		東洋医学臨床論1	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、現代医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。疾患毎に注意を要するもの、適応となるものの判断を的確にできるようにする。	2前	60	2	○		△	○		○					
○		東洋医学臨床論2	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、東洋医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。	2後	60	2	○		△	○				○	○		
○		東洋医学臨床論3	症例によっては実際の変化を測定する実験実技の要素も取り入れ、知識と技術の両輪をバランスよく学ぶ。	3前	60	2	○		△	○		○					
○		東洋医学臨床論4	教科書のための治療法・処方例にとらわれず、伝統的あるいは経験的知識に基づいた治療法も取り入れ、臨床現場で生かせる知識・技術を身につける。	3後	60	2	○		△	○		○					
○		臨床鍼灸学1 (経絡治療)	日本の伝統的治療法である経絡治療は、症状に対する治療だけでなく病を起している根本をみつけアプローチする治療である。経絡治療をする上で必要な診察方法を習得することを目的とする。	3前	30	1	△		○	○				○	○		
○		臨床鍼灸学2 (経絡治療)	東洋医学概論の内容を、実際の臨床にどのように用いて、どのように診察するのかを経絡治療の立場から理解を深める。	3後	30	1	△		○	○				○	○		
○		社会はりきゆう学	鍼灸院に来院される高齢者を医学的、社会的にとらえ、鍼灸師としてどのように関わっていくべきか考えられるようにする。また、様々な分野の疾患について研究報告等を交えながら学ぶことによってさらなる理解を深める。	3前	30	2	△	○		○		○					
○		はり基礎実技1	消毒操作、リスク管理(過誤・副作用)の知識を学んだ上で、鍼を刺入するという一番基礎的な技術を何度も基礎練習を繰り返し身に付ける。	1前	60	2	△		○	○		○					
○		はり基礎実技2	解剖学的な経穴部位の知識を十分理解した上で、リスク管理をしながら、各経穴・各部位への刺鍼技術を身に付ける。	1後	30	1	△		○	○		○					
○		きゆう基礎実技1	灸術を理解し、適切な消毒法を含む施術順序・手技を修得し、人に対し施術することができるように、基礎知識・基礎技術を学ぶ。	1前	30	1	△		○	○		○					
○		きゆう基礎実技2	様々な灸法を理解し身に付けた上で、人への施術や、難しい部位への施灸技術を身に付ける。	1後	30	1	△		○	○		○					
○		はりきゆう応用実技	特殊鍼法(皮内鍼、円皮鍼、小児鍼、接触鍼、灸頭鍼)、低周波鍼通電刺激などを学ぶ。また教科書以外からも運動鍼、頭鍼など臨床で使用されている手技を身に付ける。	2前	30	1	△		○	○		○					

○	はりきゅう実践実習1 (西洋医学系1)	西洋医学的診察内容(関節可動域測定(ROM)、徒手筋力検査(MMT)、血圧測定、反射検査(深部腱反射・病的反射・表在反射)、感覚検査)を理解・習得し、身体各部位(主要な関節)の評価を行う。	2前	60	2	△	○	○	○				
○	はりきゅう実践実習2 (西洋医学系2)	脳神経検査法・神経学的所見や、頸部・肩関節・前腕部の評価法、胸郭出口症候群・末梢神経絞扼障害の診察と評価、足関節・膝関節・腰部の評価と治療に対する知識・技術を修得する。	2後	60	2	△	○	○	○				
○	はりきゅう実践実習3 (西洋医学系3)	はりきゅう実践実習1・2で習得した知識・技術を活かし、臨床現場で種々の疾患に対応できるよう症例検討を中心とした内容を行う。総合診療的な判断・施術ができる鍼灸師を育成する。	3前	60	2	△	○	○	○				
○	はりきゅう実践実習4 (東洋医学系)	四診(望診・聞診・問診・切診)を実践し、総合判断のもとに証を立て、その証に対し治療方針・配穴の決定を行い、治療に至るまでの一連の東洋医学的治療を身につけることを目的とする。	2後	30	1	△	○	○	○				
○	はりきゅう実践実習5 (東洋医学系)	本校独自の東洋医学治療システムを使った診察・治療法を身に付ける。また、症例検討を中心とした内容を繰り返し返すことで、東洋的な判断・施術ができる鍼灸師を育成する。	3前	30	1	△	○	○	○				
○	臨床実習	現地実習に先立ち、心得、留意事項、個人情報保護、守秘義務、コンプライアンス、院内規則遵守などの指導を行う。また附属鍼灸院において、模擬患者を想定したケーススタディを演習し、治療を体験する。時には一般の患者を対象に、見学と説明を行う。学外においては鍼灸院、鍼灸接骨院や医療機関において体験実習を実施する。実習簿をもとに現場の指導者や院長より指導を受け、担当教員が個別面談とフィードバックを行	3前	45	1		○	○	○				
○	はりきゅう総合実習	臨床現場に出る前に今までの実技内容を総合的に振り返り、確実に自分のものとする。臨床現場を想定しお互いに治療を行うことで、実際の患者と対峙した時に落ち着いて迷いのない鍼灸施術を行うことが出来るようになることを目的とする。	3後	30	1	△	○	○	○				
○	総合演習1	卒業研究を行う。また、研究や学術活動に対する心構え・態度や研究への基本的知識を習得し、研究的思考の過程を知り、研究結果の事象に対し科学的に考察し、将来の研究的素養を養うことを目的とする。	2後	30	1		○	○	○				
○	総合演習2	総合演習1の卒業研究を引き続き行ない、実際に論文作成と論文発表を行なう。そして能動的で応用力のある鍼灸師を育むことを目的とする。	3前	30	2		○	○	○				
○	医学演習1	医学演習では、自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われた科目の理解を高めるための演習を行う。医学演習1では解剖学、生理学、病理学の内容を中心に確かな知識・技術を身に付けた鍼灸師を育成するための演習を行う。	3後	60	2		○	○	○				
○	医学演習2	医学演習2では東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論の内容を中心に確かな知識・技術を身に付けた鍼灸師を育成するための演習を行う。	3後	60	2		○	○	○				
○	医学演習3	医学演習3では臨床医学総論、臨床医学各論の内容を中心に確かな知識・技術を身に付けた鍼灸師を育成するための演習を行う。	3後	30	1		○	○	○				
○	医学演習4	医学演習4では卒後の臨床現場を想定し、履修した全ての科目内容を包括的に理解・応用し、現代医学的にも東洋医学的にも総合的な検査・施術を実践できる鍼灸師となるための演習を行う。	3後	30	1		○	○	○				
○	基礎演習	鍼灸師・社会人として当然身に付けなければならない、問題解決能力や課題解決への取り組み(将来の目的を達成する方法も含む)を習得する。また意欲的な人間性を育み、よりよい人間関係を築くコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	1前	30	1		○	○	○				
合計			64科目			2 2 3 5 単位時間(8 6 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学生は、学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を修得しなければ、進級もしくは卒業できない。また、卒業要件については、規定の出席率をみたし、指定された単位数を修得し、卒業試験に合格したものを、卒業判定会議で審査し、校長が認定したものである		1 学年の学期区分	前期・後期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。